

斜視・弱視は、早期発見・早期治療を！



弱視とは「視力の発達が障害されたため視力が低い」状態のことですが、大部分は早期発見・早期治療でお子さんの視力はかなり回復します。当院では乳幼児で行える斜視・弱視のスクリーニング検査機器を導入しました。今回は斜視・弱視と検査についてお話します。

Q1. 視力はどのように発達するの？

もともと赤ちゃんの目は明るい暗いかわかりませんが、徐々に外からの視覚刺激を受けて視力が発達します。視力が発達する時期を「視覚の感受性期」といいます。

視覚の感受性は1歳半くらいにピークに達し、8歳ごろに消失すると言われています(図1)。

Q2. 「弱視」とは？

視覚の感受性期に何らかの原因で視覚刺激が不足したため、十分な視力が得られなく、眼鏡をかけてもよく見えない状態を「弱視」といいます。

Q3. 弱視の原因はどういったものがありますか？

- ①斜視・・・片方の目の位置がずれている為、片目は正面を向いても、片目は違う方向を向いてしまっている状態のことをいいます。片目の視力成長障害です。
 - ②屈折異常・・・近視、遠視、乱視が両目とも強いためにおこる視力障害でピントがあわない状態で過ごしていると視力が発達しません。
 - ③不同視・・・左右で屈折度数が大きく異なっていると、左右差が強いため、片目の視力障害です。
- *原因によって治療をしていくこととなりますが、感受性の高い時期ほど治療効果が出やすく、感受性が低いと治療の反応が悪くなります。このため早い時期に弱視を見つけることが大事になってきます。

Q4. どんな検査の種類がありますか？

弱視につながる異常を見つけるには、従来の検査方法では乳幼児の測定は困難でした。今回当院で導入した「スポットビジョンスクリーナー」では短時間で生後6か月の乳児から同様の検査が行えます

Q5. 検査方法は？

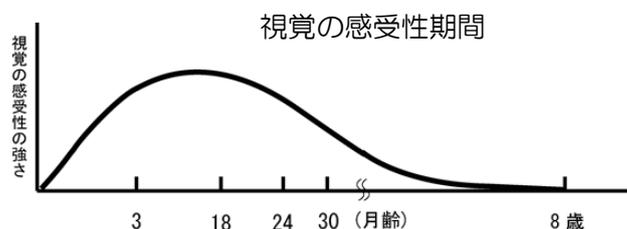
座った状態で、カメラ(図2)のような画面を数秒見せただけで測定できます(図3)。

当院では6ヶ月～3歳の乳幼児健診時に一緒にスポットビジョンスクリーナーによる検査を行います。斜視など気になることがある場合は診察の時に検査も可能ですのでご相談下さい。

Q6. 検査で異常が出た場合は？

1回目の検査で異常が出た場合、原則として日を改めて2回目の検査を受けていただき再度同様の検査結果が出た場合、眼科専門医を紹介します。

(図1)



(図2)

スポットビジョンスクリーナー



(図3)



*こんな症状があるときはご相談ください！！

- ①斜視かな？と思ったら
- ②片方の目を細めてみる
- ③ものを見るときに顔を傾けて見る
- ④テレビを近づいてみる(何度注意しても)
- ⑤物にぶつかりやすかったり、転びやすい